

# インフルエンザワクチン

## 【インフルエンザについて】

季節性インフルエンザはインフルエンザウイルスの飛沫感染と接触感染により広まります。

我が国では初冬から春先にかけて毎年流行する急性呼吸器感染症です。

発熱、悪感、頭痛、筋肉痛などで突然発症し、咽頭痛、咳、鼻閉等を伴います。

多くは2～7日で自然治癒しますが、肺炎、脳症、ライ症候群、心筋炎などを併発した場合は重篤になります。

呼吸器・循環器・腎臓の慢性疾患、糖尿病などの代謝疾患、免疫機能が低下している人がインフルエンザに罹患すると、原疾患の増悪とともに、呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られておりハイリスクとされています。

## 【インフルエンザワクチンについて】

不活化ワクチンです。

A型2株B型2株が含まれた4価のワクチンです。

毎年WHOの会議で検討の上、ウイルス推奨株が決定し、ワクチンが製造されます。

インフルエンザワクチンによるわが国での1歳～6歳未満の発病阻止率は20～30%とされています。

インフルエンザワクチンは感染や発症そのものを完全に予防することはできませんが、重症化や合併症の発生を予防する効果が証明されています。

ワクチンは接種後2週間からおおよそ5か月間効果があるとされています。

副反応は局所の発赤、腫脹、疼痛が主です。発熱、倦怠感、関節痛、筋肉痛がみられることもあります数日で消失します。

## ※卵アレルギーについて

インフルエンザワクチンは、発育鶏卵を使用して増殖させたウイルスを原材料として製造しています。

高度に精製されていますがごく微量の鶏卵由来成分が残りアレルギー症状がおこる場合があります。

卵アレルギーのある方は事前に医師にご相談ください。

鶏卵でアナフィラキシーをおこしたことがある方で接種を希望される場合は専門施設にお尋ねください。

## 【接種方法】 ワクチンを皮下に接種します。

1回量 6か月以上3歳未満 0.25ml

3歳以上 0.5ml

## 【接種スケジュール】

例年10月初旬から接種できるようになります。遅くとも12月中旬までに接種を完了しましょう。

13歳未満では2回接種 (2～4週間隔で)

13歳以上は1回または2回接種 (1～4週間隔で)

有効な免疫を得るためには4週間隔がのぞましいとされています。

## 【接種費用】 任意接種のため自己負担になります。

## 【持参するもの】 任意接種用予診票 (体温以外の項目をあらかじめ記入しておいてください。)

母子健康手帳